

# 平成25年度第1回 南丹市行政評価推進委員会

## 議 事 録

日 時：平成25年7月9日（火） 午後3時～午後5時

場 所：南丹市役所2号庁舎3階301会議室

出席者：南丹市行政評価推進委員

窪田好男委員長、四方宏治委員

南 丹 市

佐々木市長

事 務 局

大野企画政策部長、堀江企画調整課長、中川課長補佐、山内係長、塩邊主任

傍 聴 者

0名（定員5名）

欠席者：宮本三恵子委員

### 1 開 会〈事務局〉

まず会議に先立ちまして、〇〇委員様が体調を崩され、本日急遽欠席されますので、ご連絡させていただきます。では定刻となりましたので、只今より平成25年度第1回南丹市行政評価推進委員会を開催させていただきます。私は本日の司会を務めます企画政策部長でございます、よろしく願いいたします。行政評価委員の皆様方には何かとお世話になりますどうぞよろしく願いいたします。それでは、まず開会にあたりまして、南丹市長よりごあいさつを申し上げます。

### 2 市長あいさつ

改めましてこんにちは。平成25年度の第1回行政評価推進委員会の開会にあたりましてご挨拶申し上げます。委員の皆様方には大変ご多忙の中、今年度も委員として、この委員会の推進にご協力いただくということで大変ありがたく、厚く御礼を申し上げます。また、平素から南丹市行政の推進に対しまして格別のご理解ご協力を賜っておりますことに厚く御礼を申し上げる次第でございます。

さて、本委員会につきましては平成20年度に設置をいたしまして、6年目になります。23施策を3年間で1サイクルの評価としておりますので、今年度が2回目の最終年度になります。3年間の総括もあわせて次のステップに進めて行きたいと思っておりますし、また新たな評価手法にも反映させたいと思っております。南丹市を取り巻く状況でございますが、ご承知のように大変厳しい状況が続いております。まずは、人口の減少と少子高齢化

の進展でございます。また地区経済、地域産業の低迷、また地方自治体を取り巻く厳しい様々な状況などがございます。それに加えて厳しい財政状況もありますが、私が当初より、総合振興計画の着実な実施、このことを基本として、市民のニーズを適格に捉えて、また限られた財源ではございますが、それを有効、また最適に配分していくこれが行政の使命であると考えています。こういった中で、先ほど申し上げました高齢化の問題ですが、現在、南丹市内で高齢化率が31%、これは全国的な傾向でもございますが、上昇の一途をたどっております。もう一方で人口減少の問題ですが、南丹市においてこれを分析してみますと、ここ数年間は出生者数が約200人、死亡者数が約400人、自然減で毎年200人程度減っています。また社会動態でも流出が続いておりまして、1年間で100人～150人の流出がありますが、この2、3年では動きが止まって参りまして、昨年度は減から増に変化してまいりました。このことについては大変ありがたく感じていますし、どんな施策をすることによってこういう状況が出来るのかについても分析を進めていきたいと思っております。もう1点が財政の問題ですが、ご承知の通り、実質公債比率が近年3カ年の中で18%を超えると起債に対して京都府の許可を得なければならないのですが、平成22年度に19.0%、平成23年度が17.6%、まだ決算が出ていないので確定はしていませんが平成24年度は14.6%で3年間平均が17.1%となり許可団体から脱却できそうな状況でございます。しかしながら、合併の市といたしましては、やはり交付税の特例措置が終了するのが間近に迫ってきております。また国と地方の関係、これも先行き不透明でございます。将来を見据えた行革の取組をさらに進めていく中では、行財政改革をまだまだ突き進めなければならないと思っております。今日までお世話になってまいりました行政評価推進委員会、先ほど申し上げましたように2サイクル目の最終年度になりますので、将来を見据えた取組ができますように、ご提言、ご指導を賜りたく思いますので、よろしくお願い申し上げます。本日も大変お忙しい中、ご出席を賜りまして厚く御礼を申し上げます、開会のあいさつとさせていただきます。お世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 〈事務局〉

続きまして委員長様よりごあいさつを頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。

### 3 委員長あいさつ

それでは今年度の行政評価推進委員会を始めていきたいと思っております。市長からも言っていただきましたように、3年で1周、私は2期目の委員長を努めておりますが、早くも最終年度を迎えました。〇〇先生に関しまして、大変お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。1年前に評価をいたしまして、あっという間に時間が経過いたしました。私どもの任期の関係がありますので、例年より少し早めの開催になりました。しかしそれは、今年度行った評価を次年度に反映させる上でも、また次年度以降の新たなステージという言葉を生かす市長からいただきましたが、それを考える上でも好都合と考えられます。

個人的に申しまして、いくつかのところで評価を引き受けているわけですが、今年度は南丹市が最初です。さて、評価につきましてですが、毎年総務省が、どの程度評価を導入しているか調べて発表しているわけですが、最新の調査で平成22年度の10月現在で977の団体で導入しているそうです。全体で約1,800の自治体の中で977で、導入していないのが大部分で町村ということになりますので、市以上の多くは何らかの形で導入しているそうです。一般的には評価疲れ、評価にかける費用の割には改革の成果が目に見えにくいのではないかとわれだして、2、3年たつところですが、まだまだ進めていくべきではないかと思えます。国のほうでも政策評価制度を導入して似たようなことを言いながらも、総務省で色々対応しながら進めているところです。最近研究会のようなもので総務省に行ってお話をさせてもらっていますと、従来あった政策評価制度、民主党政権のときに出来た事業仕分けの後継の行政事業レビューが並列状態で続いていまして、両方やっている状況で、財務省の政策調査などもあり2重、3重とやっている状況なので、これを何とかしぼっていくのも課題だと聞いています。自治体レベルでも事業仕分けに全部シフトした面もあったが、政権交代とともにそうではなくなった。政権交代したから手法を変えるというものでもないのではないかと関係しているところには言っているが、一時期のように個別の事業評価というのでもなく、事業仕分けでもないようです。とは言え、事業仕分けの流れを汲むようなところでも、近年は無作為抽出した市民の方に仕分けに入ってもらいやり方も増えてきているようです。私も個人的に舞鶴市の公開事業評価というのをお受けしているのだが、そちらでも無作為抽出で入れようとしているところです。また他方で事務事業評価でも色んな形で工夫をして効果をあげようとしていると思います。事業仕分けと事務事業評価のいいところを合わせていく、また参加も考えていく、そして手間ひまは減らして効果をあげていく、というようなことがキーワードになりながら、評価手法も引き続き、研究検討が進められているところです。そんな中で南丹市の行政評価も総合振興計画に立脚した評価ということで、それを2週終えるというのは、先を見ているということなので、引き続きよりよい形で、まずは評価システムを次につないでいけるように考えていけたらと思いますし、何より総合振興計画に基づく政策体系、そして施策運営そのものに有益な提言ができればと思っています。本日は、まずは第2期に入っていますので、昨年度の成果の確認と今年度の評価の中身を確認し、委員と事務局の間で意思統一してヒアリング本番に望んで参りたいと思います。こういった取組がより成果を挙げると考えていますので、ご協力をお願いしたいと考えています。市長におかれましては、必ずしもいい提言ばかりではないかもしれませんが、その実現に向けてぜひご検討いただければと思います。暑い時期にお世話になりますけれども、ご協力のほどよろしく願いいたします。

#### 〈事務局〉

ありがとうございました。市長におかれましては他の予定がございますので、ここで退席させていただきます。

**(市長退席)**  
**(事務局紹介)**

**4 議事・報告**

**〈委員長〉**

まず昨年度の行政評価の取組の総括、課題を踏まえて、平成25年度の行政評価の取組について事務局から報告をお願いしたいと思います。

**(事務局から資料1により説明)**

**〈委員長〉**

まずは昨年度の取組と昨年度抽出された課題、今年度どういう課題意識を持って望むか、というような部分について重点的に考えてもらいたいと思います。昨年度の取組を5点、課題を3点あげていただいています、委員の方に伺いたいと思います。

**〈委員〉**

課題のところでは一般の事業会社の世界でも、評価という制度は目的もはっきりしているが、実際にそれを現場で理解して効果を出すのは非常に困難な部分がある。ですから、行政という民間とは違った世界の中での意識や目的に照らして理解して、それを落とし込むのはなかなか難しい問題だと、これまでを振り返って、強く感じるところです。それから2番目の予算につなげるのは、理屈ではつながる感じだが、そもそも予算というのは難しい話で、仕組みづくりと書いてあるがこの辺の切り口をどういう手法でやるのか、予算は一つの決断で、理論的に積み上がるものでもない。大きくいうと限られた財源をどう割り振るか、効果が大きくなるように割り振りたいが、なかなかうまくいかない。民間でよく言うのは、中長期的なビジョンとそれに対する単年度の決断、限られた時間と利益、それ以上のことはできない。自己資金とこれから稼いでいく利益でどう振り向けていくか。その根本は経営陣の決断にある。行政の中でも、民間と同じような機能を担うのは戦略的にみるという意味では企画ではないかと思う。意思決定、決断を仕組みづくりという部分において新しい方向性というか、南丹市独特の結果を出していく仕組みを考えていかないといいと思う。現場でした結果をどう予算につなげていくか、予算は1番大事なところなので、いい結果、サービスをローコストで出したいので、その決断にどう結びつけていくかがなかなか難しいが、仕組みづくりを検討していく必要があるなと感じます。事業の整理・統合・削減が不十分については、昨年度も施策のまたがっているような事業、もう少し統合したほうがいいのではないかという議論が出ていたので、事業評価とは別に事業の体系、事業を合理的に行っていくために、評価とは切り離して考えてはどうか。行政の中で事業体系をどう構築すれば効率的に効果が出せるかという視点で、過去の評価実績もふまえて、見直す必要もあるのではないかと思っている。時代で事業は変わってきているし、将来を見通しても大きく変わっていくので、単年度毎ではなくて3、5年くらいのスパンで事業評価の結果も大事ですが、別に施策を含めた事業の整理・統合も必要ではないかと

思います。

#### **〈委員長〉**

課題についてももう少し具体的な補足の説明、現状における導入意識について共有できたらと思います。

#### **〈事務局〉**

まず課題のところで1番目の評価の目的や意図に対する職員の理解不足というところで、内部評価から外部評価も含めて、職員の中で、していくべきことというのはだいぶ浸透しているが、どうしてもやらされ感が見えるのと、やる手間ばかりが増えて、何に反映しているのかが職員には見ようとしていないのもあるが、見えていない。何のためにするのか、という根本的な部分になるが、評価の目的について職員の理解を深めて資質の向上に努めていく必要があるということで課題があると分析しています。

2点目ですが、外部評価でもご指摘を受けてしているが、原課のほうで次年度の予算に、内部評価の結果、外部評価の結果、例えば縮小するとなっても去年と同じように予算を要求したり、また評価の担当の課で、予算があがって、こちらの評価とあっているのかという検証が出来ていない。原課で評価の結果を見て予算編成をしているのと、評価の結果が財務のほうでの編成のときにすべてが反映されていないのが具体的にあげられます。

3つ目の事業の整理・統合削減の不十分も1、2と同じことにはなるが、なかなか事業整理・統合をまとめたらどうかと、内部評価、外部評価で出ている、なかなかそれをするところまで行えていない。整理を行わないといけないと検討はしているが、思い切った統合・削減が多く課ではできていない。

#### **〈委員長〉**

少し確認をしたいが、南丹市では外部評価を受けて、それをどう反映しているかは、基本は原課のほうで考えるとなっているということですね。そこが弱いのではないか。例えば京丹後市では事務局でももう少し委員会で何を求めているかリストアップして、それに対してどう対処していくか部長の指揮のもとにどうするか必ず返事が返ってくる。無理なら無理、やるならやるで回答がある。なぜそういう違いが出てくるかという、あちらのほうがより財政的に切羽詰っていて、縮小していきたいという計画のもとで進めているからなのかと思う。南丹市の場合は、各部でももう少ししぼってほしいぐらいの考えで留まっているから、なかなか自分のところだけ思い切ってしぼるというわけにも行かないだろうし、そうなるのかなと思う。評価結果を活かす仕組みなのか、財政規模に合わせて施策を縮小するなり、力の入れ方の仕組みなり、そちらの課題なのかと思う。外部評価を受けて、各部で受け止めて見直してくれというのでは活用上弱いのかもしれない。他のところでも反映されているところは自発的ではない、市長のリーダーシップなり、評価担当部局の力なりで実行せざるを得ないとしているところが多いと思います。軋轢もうまれてくるのも事実。事業仕分けにおきましても、事業仕分けと呼ぶか、他の名前でやるかはともかくとして、外の間人がきて、しがらみにとらわれずにきついことを言うと、反発が生まれること

もある。そういう現場をいくつも見てきています。京丹後市のような行政評価という枠内でやってもかなりきびしい指摘をすると反発があるのは事実で、事業の目に見える政策の中身が変わるとか、財政のお金の規模が変わるといのはそういうプロセスが必須なのかなと思います。せいぜいできることは、いかにも事業仕分けのようなしゃべり方ではなくて、もう少しやわらかく真摯に話をさせていただくぐらいです。事業仕分けをされる方々は、そういうスタイル、ポリシーでとにかくきつく言わないといけないという芸風がある。施策ごとに削減目標額を決めて削減を進めるが、市民協働や自治組織活性化というような施策のところでも一定金額縮小の方針となっていて、メインが街灯をつけてまわることになっている事業で、市長の肝いりで街灯倍増計画としているため減らしようがないと課長さんもおっしゃっていたが、そんな中でも市長から歳出削減が絶対優先で、減らすしかないとなると、集落だけ残して集落間はなくすとか、夜の10時以降、街灯を消したら歳出削減になるとか、そういう議論ができたこともあった。そういうことが南丹市ではうまくいかない、施策判断、財政上の判断が各部に委ねてあるのでは動かないかなと思います。今年度については引き続き、施策の目的から事業が展開されている目的がうまく整合しているのか、事業展開が成果をあげているのか、無駄削減の余地はないかを指摘していく。また財政的に厳しいので、どうしても削らないといけないなら、この辺からやっていったらどうかというスタイルでいこうと思う。次の段階では市ごとのスタイル、伝統もあると思うが、その辺ではないかなと思います。なぜかという私達は5年間、南丹市の23の施策を2回みさせていただいて、不必要なものはあまりない。財政も厳しいなか、また地元の理解も得ながら施策を進めていくのは難しいなか、できることを一生懸命されていると思うので、そこからどれか選んでしぼってくれというのは難しいことなのかなと思っています。それぞれの担当の部や課からすると、貢献度評価をしているが、全部貢献度は高い、必要なものばかりだという考えが多いと思います。しかし、市の対極的な判断としてはメリハリをつけないといけないこともあるだろうし、総合振興計画で29年度までに実現するのが無理かもしれないし、情勢の変化とともに減らさないといけないこともでてくるかも知れません。こういったことはどこかで決めないといけないし、せっかくの工夫でしていただいていることですが、施策貢献度とコスト削減のマトリックスの中からターゲットを見出してというのはするりするりと交わされているなと思うので、その辺りを考えていけたらいいなと思っています。せっかくなので、事務局の他の皆さんの考えがありましたら、伺いたい。

### 〈事務局〉

昨年までは評価をしていただくほうで、事務局は今年からなので、全体的な取組についての部分は初心者ではございますが、確かに評価をしてその中でという部分が共有できていないというのが問題だと思う。評価の結果が次に反映する方法として、外部評価の結果に対してどういう対応をするのかという部分で、内部評価も含めて予算の配分をするが、結局は部単位での配分になるので、部の中で小さい事業だと経費も論理的な部分もほとんど

どない中で、色んな知恵をしぼって切っても、年間で5万、10万の節約ができるものも、2、3年ぐらいするとできない部分もあるが、一方では市民福祉部で、福祉関係の経費が非常に大きい。そこは評価も受けるが、受けない部分もあって、その総額の中で何%削減という形でいくと5万、10万を切る努力をする部、課とそうでないところの差が、自然増や社会増的な環境による空白の部分に差があって、取組に対して自分だけが押し付けられている感とか、やったのにあんまり効果が出てないという部分もあって、そういう部分も評価結果をスクラップ&ビルドにつなげていけない部分かなと思う。4月以降、人事評価をしていて、行政評価を受けて改善したことも評価されないという気がでてこないのかなと思います。今年度は2回目の最終なので、大きく変えるというのは難しいので、同じ仕組みの中でやっていって、次のステップアップという形に向けて事務局として、今後についての検討も合わせてやっていきたいと思っています。

### 〈事務局〉

今せっかくいただいた評価結果の使い方が、南丹市は原課任せだというご指摘をいただきました。確かにその通りで、1番大事な部分、原課の立場からすると守りに入るので、なかなか先生方の指摘通りに従うことがしにくくなる。先生がおっしゃるように、そこが企画調整課で行政評価なり、行政改革を担当している私達の一番の仕事だと思っているので、改めて反省も含めて真摯に受け止めたところです。それと合わせて原課が守りに入るという話をしたが、この企画に来て今後交付税が減っていく話とか、だんだん厳しくなるのを現実的に感じるようになったが、原課にいるとなかなか危機感がまだ浸透していないのかなと思います。その辺りも行革の担当課として財政サイドとも連携しながら、まず職員が自覚できる環境づくりに厳しく持っていくことが一つだと考えています。

### 〈事務局〉

ここに来るまでは一つの課で一職員として働いていたので、当初予算も補正予算もこんだだけといえば大体付いてきましたので、本当に危ないのかなと、ここに来て全体をみて初めてわかった。これからは減っていくというのもあるし、職員の資質もあげていかないといけないが、原課で言うと市長から財政から企画からこう言われたから、どうしても削らないといけないというほうが市民の方には言い易いし、そういう方向性じゃないと自分達のほうから削るのはなかなか難しい。しかし制度も日常の業務も知らない企画から、一律これだけ切ってくださいというのも正しいのかどうか難しい。反省としては、フィードバックが出来ていないのとある程度、強制力があるのかなと思う、3年間見えてきて気づいたところもあるので、うらまれてもいいかなと思うので、ある程度こちらから言っていかないと縮小は難しいのかなと思います。今回については、3年で一回りしたので、次のステップアップを続けていくのか、新たな手法を開発していくのか、もっとスパイスを効かして厳しめにいくのか、その辺りも含めて委員さんの中で職員も含めて検討して方向性が出たら嬉しく思いますのでよろしくお願いします。

### 〈委員長〉

非常に貴重なご意見を伺えてよかったですと思います。改めて考えたが、この2年間私達が指摘してきたことであきらかにおかしいという指摘は少ないです。どうしても財政が厳しい中で削るならここじゃないかと言う、そして削るべきじゃないと言われるとそれまで。こうするともっといいんじゃないかと言うと、たしかにそうだがやらなくてもいいと言われると、まあそうだとなる。有害鳥獣の対策も指摘をさせていただいたが、なるほどそうですねと言っただけだが、だからと言って取り入れるわけではない。評価は確実に言われたらやらないといけないというのは、明らかに非合理であるとか、削減しても同じ成果が挙げられるはずとなると正さないと仕方ない。そこまで明らかにおかしいというのは減ってきたと思います。施設がここまでたくさんなくても効果が発揮できるのではないとか、言ったりしているが。しかし明らかにおかしいものは減ってきたから、我々が直面している課題もあるのかなとも思う。

### 〈委員〉

目標は総合振興計画で、これを市長がリーダーシップをとって4年間の任期の中で思い切ってやる。その結果、市民が評価する。選挙のためにやっているわけではないが、構図はそうだ。一般事業会社で社長が下手な経営をしていたら×になる。この計画をどれだけウエイト付けしていくか、市長が企画部門に戦略的に組み立てを指示し、市長のリーダーシップの下で実践していくか、そこでどうお金をつけるか。つけるお金は逆算するとどれぐらい付けられるのか。やはり借金があるので、返す分も含めてある程度大枠を組み立て戦略的に見通す。市長が言うことを受けて実務的にやる人がいないといけない。例えば①の課題の職員の理解不足というのは、現場の落としこみが不足している。みんなが意識を変えて理解しようという、そんなキレイなものではない。はっきりしたものさしがあって、その結果が出るか出ないかのそのためにどうだと、施策毎に平等にできないか、できないのならどういった戦略でどうウエイト付けしているのか、限られたお金をどうつけるか。今、わかっているのはきちんと市民に提言されている南丹市の方針である総合振興計画がある。また、市民も交付税の特例がいつなくなるということもわかっている。このような中で計画をいかに実現するかということになるので、3、5年の中長期的なビジョンが必要でないか。この意思決定をするのは、市長であると思う。その決定の中身を形にしていくなので、裏方で、市長の決定を間違いなく戦略的に進めていく、財政も評価もすべて含めて。周期的な意思決定も必要だが、年度ごとの予算でも意思決定がある。その部分の仕組みがあるのだろうが、私達には見えてこない。やはり現場にいる立場から言うと、少々節減しても知れているというのはよく聞く話で、そんなことをしてもやる気がなくなるからだめだとか、民間でよくある話です。現場で大目標が理解できていない。それをやることによって次どう変わるかが見えない。そこが難しいがもっとも大事なことです。職員の理解不足だとか、予算につなげる仕組みとか、こういう言葉はたくさん出てくるが、その根本はきちんと決めた部分でやるしかない、トップダウンで落とし込む。協議で積み上げていくのには無理がある。どっかで削らないといけないとなると誰が削るかということ、外部評価で



第3者がみて無駄なところがあると参考にしたらいいが、やはり1番は行政に携わっておられる幹部の方、市長しか決断できない。その仕組みを行政組織の中でもう少し強くすることが必要かもしれない。委員をさせていただいているが、この根底のところでのギャップを感じている。施策のウエイト付け、人や金の割り振りは必要であるので、決めていけないといけない。南丹市の経営になる。フローチャートがあるが落とし込めていないのではないか。南丹市を戦略的に組み立て、どう経営していくかが根幹だと思う。

**〈委員長〉**

引き続き今年度の行政評価の流れについて詳しく確認させていただいたうえで、手続き的にも何を指すのか固めていきたい。事務局から説明をお願いします。

**(事務局から資料2により説明)**

**〈委員長〉**

これについてなにか〇〇先生のほうからございますか。

**〈委員〉**

今お聞きして、昨年度と大きく変わっているところはないかと思しますので、特に意見はありません。

**〈委員長〉**

いくつか確認させていただきたいが、総合振興計画は29年度までで、間はあるが、行政評価の指摘で書くべきことかもしれないが、どうも達成されそうにない目標もある気がするが、どう扱っていったらいいのか。もちろん考え方としては目標自体見直したらという意見もあれば、目標が達成されそうにないからこ入れすべし、という直球な指摘もあると思います。例えば3の4の施策だと、バス交通、福祉タクシーの施策ですが、総合振興計画には市バスの利用者数の目標が書いてあるが、25万5千人の利用者数を目指しているが、実際は22万6千人ぐらいだということだが、人口が増えて社会増になっているという市長からのお話もあったが、だからと言ってバス利用者が急激に伸びるといのは考えられない。ケーブルテレビの加入率も92%か93%を目指しているが、実際は85.8%で、前から住んでいる人が入らないのもあるのかなと想像されるので、この数値が目標に向かって10%ぐらい伸びるのはどうかと思うので、どう考えていったらいいのか。細かく言うとケースバイケースで、目標を達成する情勢にあるのか、目標が何年も前に作ったから違うかもしれない。そういうことを考えるのが委員会の役割かもしれないので、この辺りはどうか。

**〈事務局〉**

今日、先生方にお渡ししたらよかったです。後期基本計画で昨年度に見直しをしています。先ほどの2つの例示についても一定の現況の数値に合わせて、飛躍しているような数字については見直しをしています。今年の評価は平成24年度の実績になるが、今年度から後期基本計画で進んでいて、見直した目標を定めているので、振興計画に基づく施策の評価をしていただくには、今、進めている流れとはアンバランスな部分が出てきます。2

期目も今年度で終了となるので、今後の進め方の根本も検討してもらわないといけない状況ですので、できたら今日中に今年度から29年度の目標数値もお渡しできたらと考えています。

**〈委員長〉**

新たな数値に向かって現行の計画の数値と照らし合わせて考えるということですね。

**〈事務局〉**

平成24年度の実績に基づく評価をお世話になっているので、流れはそうだが、数値的な部分は後期基本計画も見えていただきながら、それと今後の方向性も踏まえた評価をお願いしたい。全体の流れの説明なので、12日からはそのような視点も踏まえてお願いしたい。急なお願いで申し訳ないです。

**〈委員長〉**

後期基本計画を参考意見程度に指摘するのはあるかもしれませんが。主には後期基本計画の目標数値に照らした現状の取組では無理そうではないかというのは、行政評価の指摘なのでやっていきたい。

続いて財政削減の視点だが、現在進行中の財政削減に向けた取組の目標値みたいなものはあるのか、一般論として先を見据えて交付税の減少に向けてしぼっていこうという方向性だけあるのか、その確認をしたい。

**〈事務局〉**

毎年度、予算編成のときも見直しは出しているが、平成28年度以降の交付税の大きな見直しがある。昨日も別の会議で財政サイドと調整をしていたら、交付税削減に伴う財政の見通しの見直しを喫緊にやらなければならないと言っていたので、財政計画の見直しが出てきたら、評価の途中にお渡しできる状況にできるかわからないが、年度途中には出せると思います。行政評価を受けた結果を踏まえて、こちらで再度整理したり、戦略の練り方の検討をしなければならないと思っています。

**〈委員長〉**

歳出削減の提案は例年通り実際にやるかどうかはともかく全ての施策について歳出を削減するとしたらこんなことが考えられるという指摘をしたいと思います。〇〇委員いかがですか。

**〈委員〉**

私の方では特にありません。

**〈委員長〉**

進め方は確認できたので、こういう大きな流れの中、内部評価をしていただいて整えてもらっているのですが、これに基づいて外部評価に進んでまいりたいと思います。3回にわたりまして、100以上の事業について評価をしていきたいと思います。経験上、事業数が少なくても施策が多いと時間がかかってしまうものですが、決められた時間内でかつ充実した議論となるようにご協力をよろしくお願いいたします。

### 〈事務局〉

先生方から資料①の流れは仕組みについてはお褒めをいただいたと思っています。ただ課題の中で、評価をしているが見えない部分があるのご指摘もあった。また、ご指摘の中で最終的なトップのリーダーシップ、決断という言葉をいただいたので、この仕組みの中に理事者との懇談やヒアリングを外部評価の終了した時点で、部局長が優先度をつけていく仕組みになっているので加えていく必要があるのかなと思います。重点化協議については懇談やヒアリングを踏まえた企画サイドと理事者との協議もやっていかないといけないかなと感じました。これは私の感想なので今後検討していきたいと思っています。

### 〈委員長〉

力強いお言葉をいただいたので、私どももいつそう工夫をしていきたいと思っています。その他について事務局からございますか。

**（事務局から次回の日程の確認：平成25年7月12日（金） 午後2時から 2号庁舎 3階301会議室）**

### （委員退席）

### 〈委員長〉

会議で話を広げすぎると難しいかなと思っていたが、仕組み自体はいいが、評価の説得力だけで動かすのはよその例を見ても難しいのかなと思いました。問題を広げそうなことを言うと、部長の人選を若い層の方にやっていただくとか、もう少しでやめる人がこんな大きな中で変化を入れるのは心情的にも色々な意味でやりにくいのではないかと思う。そこを急に変えるのは難しいが、出来たらもう少し長く行政に関わられるような方にポジションに来ていただいて、ベテランの方にはそれを活かした議会とか諮問会議とかの方がいいのではないか。そういう工夫もどうか。誰がされても相当ストレスになるようですし、評価でどれだけ言われても、市民の方や企業の方からしたら嫌だし、困ると言われると思うので、そういった意味でも部長や課長のポジションには力量や精神力が必要なのかなと思う。評価で何かが変わるのは、採用している評価基準でみんなが納得していて、それが正確に測定できていて仕方がないと納得するので、私達の施策貢献度やコスト削減度で並べるとか、一個一個の施策で目的、手段がちゃんとしているかを見ていく手法では絶対に言うことを聞かないといけないという刑事裁判のような意味での強制力はもちにくい。評価の力だけで施策を変えるのは難しいので、市長の決断、事務局の尽力、所属長の工夫もいるのかなと思っています。我々委員会も今後の基礎となる意見や提言等を出していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

## 5 閉 会

### 〈事務局〉

本日はありがとうございました。今週からヒアリングが始まりますが、どうぞよろしく願いいたします。